

TNTgis インターネット・ライセンス (E-ライセンス)について

- ・ TNTmips, TNTedit, TNTscript, TNTviewに対応します。
- ・ E-ライセンスの使用にあたっては、提供されるシリアル番号とインターネット接続が必要です。

E-ライセンスを購入した場合、シリアル番号を電子メールで提供します。マイクロイメージからUSBキーやドキュメント類の発送はありません。ソフトウェアやドキュメントはマイクロイメージ社のサイトからダウンロードします。メディアによる配布を希望される場合、販売代理店にご相談ください。

<E-ライセンスのメリット>

- ・ USBキーを使いませんので、紛失や故障の心配がありません。
- ・ 出荷や到着を待つ時間的なロスがありませんので、即座にライセンスを使用できます。従って、送料がかかりません。
- ・ 物品の出荷がないので輸入関税等もかかりません。

※通関業務の規則順守については、当該国の通関業者に確認してください。

- ・ 使用期間を限定したPro ライセンス評価版の提供も可能です。販売代理店やマイクロイメージ社にご相談ください。

<E-ライセンスに関するよくある質問>

Q1. E-ライセンスの使い方を教えてください。

最初にTNTgis 製品を起動する際にE-ライセンスのライセンス種別の設定がなされていない、あるいは認識されない場合、E-ライセンス設定のためのプロンプトが表示されます。E-ライセンス

オプションをクリックし、提供されるシリアル番号を入力してください。

Q2. E-ライセンスのために何か特別なソフトウェアをインストールする必要がありますか？

必要であれば、マイクロイメージから別途提供される追加ソフトウェアをインストールする必要があります。ただし通常は自動的に行われます。セキュリティソフトがインストールされている場合はマニュアルでインストールする必要もあります。何か問題があればマイクロイメージ社のテクニカルサポートがインストールをお手伝いします。

Q3. E-ライセンスでサポートされるTNTgis のバージョンは？

TNTmips, TNTedit, TNTscript, TNTviewの各バージョンの2015以降が対象になります。2015より前のバージョンではE-ライセンスは使用できません。

Q4. E-ライセンスが利用できるOSは？

現在はマイクロソフトWindows (XP以降)のみになります。MacOS についても将来サポートする予定です。ご興味のある方はお知らせください。MacOS 版がサポートされ次第ご連絡します。

Q5. インターネット接続が必要ですか？

必要です。TNTgis ソフトウェアをE-ライセンスで使用、インターネット接続が有効である必要があります。

Q6. E-ライセンスはファイアウォールやプロキシ環境で使用できますか？

プロキシやあなたの会社で使用している制限事項によりませんが、恐らくは問題ないと思っています。テストが必要であれば、評価版をご請求ください。ユーザーのファイアウォールやプロキシ環境で使用できるよう、マイクロイメージ社のテクニカルサポートが設定のお手伝いをしま

す。

Q7. 1つのE-ライセンスを複数のコンピュータで使用できますか？

複数のコンピュータで使用可能ですが、同時使用は1台のコンピュータに限られます。オフィスや家、ノートパソコンで出張中でもTNTgisを使用できます※。(※インターネット接続が必要)。

Q8. 現在USBキーでTNTgisを使用していますが、E-ライセンスに交換できますか？

交換できますが、USBキーを返却する必要があります。ライセンスをE-ライセンスに切り替えるには、WindowsのApps(スタート)メニューからTNTgisのライセンス・コンフィギュレーションを選択します。

Q9. E-ライセンスのシリアル番号のプロテクトについて

シリアル番号は絶対に人に教えないでください。シリアル番号を他の人に知られるとTNTgisの使用が出来なくなる場合があります。そのような状況が起きた場合、マイクロイメージ社は新しいシリアル番号を発行しますが、状況によっては通常の料金が発生する場合があります。

Q10. E-ライセンス版のフローティングライセンス(マルチユーザ)もあるのでしょうか？

現状ではE-ライセンスはシングルユーザのみになります。E-ライセンスのフローティングライセンス版は将来的に可能かもしれませんが(*)。フローティングライセンスのE-ライセンス版に興味のある方はマイクロイメージ社または販売代理店にご連絡ください。

(*)2018年10月に確認した所、フローティングライセンスはサポート済み。

Q11. E-ライセンスをAWSなどのクラウドサービスで使用できますか？

TNTscript 製品はユーザとの直接的なやりとりが必要ないのでクラウドサービス環境で実行できます。TNTmips, TNTedit, TNTview もクラウド環境で実行可能ですが、これらの製品はユーザが直接対話的に操作する製品なのでクラウドサービスには向かないと思われます。

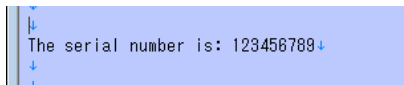
(翻訳)株式会社オープンGIS

2016.7.11 / 2018.11.13

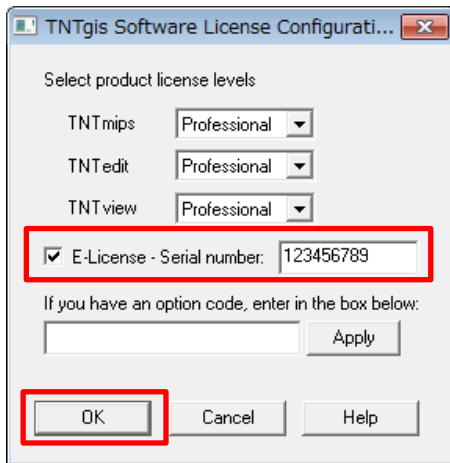
TNTmips : 「E-ライセンス」コードの入力方法

ご注意) 「E-ライセンス」での使用はインターネットに接続している環境が前提となっております。

メールで次のようなライセンスコードが送付されます。



TNTmips のインストール時に「License Configuration」画面でこのコードを入力します。



すでに TNTmips がインストール済みの場合、「License Configuration」画面を出す方法 :

[スタート] ボタンから

「すべてのプログラム」 > 「MicroImages」 > 「TNTgis xxxx」 > 「License Configuration」を起動します。

もしくは、TNTmips を起動後、[ツール]> [システム]> [ライセンスを設定する] から行います。



入力後、TNTmips を再起動してください。メニュー上部にライセンスコードが表示されています。

